

熱性けいれん、 その時どうする

函館中央病院
小児科

水上 晋
診療部長



子供が手足を硬直させびくびくとけいれんし始めたら、多くの方は気が動転してしまいどのように対処したら良いか判らないと思います。子供が熱性けいれんを起こした時、気を付けたポイントをいくつかご紹介いたします。

熱性けいれんは主に生後6か月～60か月の乳幼児に起こる、38℃以上の発熱に伴う発作性疾患と日本小児神経学会のガイドラインに定義されています。また、熱性けいれんは単純型と複雑型に分けられます。

単純型熱性けいれんは、時間が1～2分程度、意識がなくなつ

て、目が上を向いて体が固まって手足をぶるぶる震わせた後びくびくと動いて、顔色が悪くなる人が多いです。左右対称のけいれんで、けいれんは1回です。一方複雑型熱性けいれんは時間が3～5分以上と長かったり、2回けいれんすることがあり、片側のけいれんや意識がなくて動かないけいれんなども見られます。

単純型熱性けいれんは、けいれんが治まれば熱以外の対処は必要ありませんが、複雑型熱性けいれんは神経学的な異常がなければ調べる必要があります。

これらのことから救急車を呼

ぶのは3～5分程度様子を見てからでも良いと思います。

けいれんを起こしている時の対処法としては、体と顔を横向きにして、吐いた物や唾液や痰が、口から流れ出るようにします。口をくいしばる姿を見て、舌をかむことを心配して口を無理に開けたり、口の中に物をつめることは絶対にしてはいけません。口を傷つけたり、窒息するなど、とても危険です。

気が動転してしまいがちですが、ぜひ慌てずに対処していただきたいと思います。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代)
<http://www.chubyou.com/>

- 診療科目／内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全24科目
- 受付時間／8:30～11:30、13:30～16:00
※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。
- 休日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)

【略歴】

昭和59年、北海道大学卒業、同大学病院勤務。幌南病院、天使病院、北海道大学病院、札幌社会保険中央病院、手稲深仁会病院を経て、平成7年から函館中央病院勤務。同年、同院小児科医長、平成10年、小児科科長、平成21年、診療部長就任。小児神経専門。日本小児科学会専門医、小児神経専門医、日本てんかん学会専門医。